

## 平成29年度田村市立都路中学校 第14回卒業証書授与式 校長式辞

阿武隈高地の厳しい冬も終わりを告げ、今年もまた希望に溢れた春が巡って参りました。本日は多数のご来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、ここに都路中学校第14回の卒業証書授与式を盛大に挙行できますことは、誠に大きな喜びであります。

さて、今日ここに晴れの日を迎えた17名の卒業生の皆さん、「卒業、おめでとう。」 昨年の4月、喩えれば皆さんは、固い蕾のようでした。そして、一人一人が自ら花を咲かせるためには、何が必要なかと考えながら、皆さんと一緒に様々なチャレンジをしてきました。卒業までの限られた時間の中で、皆さんの成長に必要な光や水や栄養を十分に保証できたかと問われると、正直心許ない面もあるかもしれません。

しかし、この3年間の中学校生活を通して、様々な体験を積み重ねながら、月日を追う毎に蕾が柔らかに膨らみを増していく、そんな確かな手応えを今日の皆さんの姿から感じております。

学校生活では、穏やかな人柄で仲間や後輩たちと関わり、常に落ち着いた態度で誠実に学ぶ姿が印象的な皆さんでしたが、一人一人とじっくり話をすると、自分やふるさとの未来を真剣に考えることのできる熱い気持ちを持っていることに驚かされました。

一方、中体連では、普段見せないような勝負に挑む逞しい姿を見せてくれました。どの部も苦しい試合展開が続く中、歯を食いしばり、ピンチに耐え抜く皆さんの姿は、後輩たちの脳裏に深く刻まれたことと思います。

生徒会活動や学校行事においても、頼りになるのは、やはり卒業生の皆さんでした。今年の藍爽祭は、企画運営のほとんどを生徒たちの手で行うことにしました。とりわけ、学年発表での動画制作やダンスなどにおいては、次々に繰り出される創造性豊かなパフォーマンスに、会場は大いに盛り上がりました。皆さんの可能性と底力を、そして、本校の新たな伝統の始まりを感じることもできた、かけがえのない一日となりました。

さて、今まで私は機会を捉えて、様々なメッセージを皆さんに伝えてきました。今日は皆さんの新たな旅立ちへの激励として、最後のメッセージを贈ります。

東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県気仙沼市。この漁業の町で、地域の伝統でもある手編みのセーターを、「フィッシャーメンズ・セーター」というブランド商品として開発し、気仙沼の新たな産業にした会社があります。

この会社に勤める、ある30代の女性は、小学6年生の時、先生から「将来は何になりたいのか。」と訊かれて、答えられませんでした。そのことを家に帰って母親に話すと、「何になりたいかより、どう生きたいかでしょう。」と、諭されたそうです。そして、両親は、好奇心の強いこの女の子を、ポルトガルで開かれた国際キャンプに送り出しました。この女の子は、そのキャンプで、世界十数か国から集まった子どもたちと、1か月間寝食を共にしました。

「夏休み明けに学校の教室に戻ると、世界がすごく小さく身近なものに感じられた。それまで、ただ地図上の固有名詞だった国や地域で、友達が日常生活を送っている。その感覚は今でも覚えている。」と、大人になったこの女性は語っています。

実はこの女性は、気仙沼ニットイングという編み物会社の社長です。「つくれるものをつくる、のではなく、本当にほしいと思われるものをつくる。そして、稼げるというだけでなく、仕事や地域に誇りを持てるようにする。」それが、気仙沼という町に、彼女が残したい仕事だそうです。

彼女のこのような志の原点は、「何になりたいかより、どう生きたいか。」という家族からの問いかけ、加えて、ポルトガルという異国の地で、世界中の子どもたちと、1か月もの間暮らしたことにあると私は見えています。

平昌オリンピックで金メダルを獲得した小平奈緒選手も、28歳で単身オランダへ渡り、プロチームに加わって、辞書を片手にスピードスケートを学びました。自分の普段いるところとは異なる環境に身を置いたことが、新たな出会いと発見をもたらし、31歳という年齢を感じさせないスピードと技術を生むとともに、金メダル獲得へとつながったのです。

中学生という多感な年代は、自分らしさとは一体何なのかを自らに問いかけながら、自分なりの見方・考え方や価値観を築き上げていく時期であります。ともすれば、狭く閉じられた人間関係の世界に偏って生きている中学生の時期は、見方・考え方や価値観も偏ってしまう傾向にあります。人の考え方や生き方は様々であり、何が良くて悪いのかなどということを手軽にアドバイスできるものではありませんし、特定の生き方を押し付けることもできません。しかし、素敵な出会いは、自分の進む方向や生き方を決める助けとなってくれます。また、臆病な自分を、勇気ある人へと変えてくれることもあります。

都路中学校という小規模校で学んだ卒業生の皆さん、在校生の皆さんにこそ、様々な大人や仲間とのかかわりの中で、素敵な出会いを見つけ、多様な考え方や生き方を学びながら、「偏差値よりも経験値」という言葉を大切に、「精神的なたくましさ」をぜひ身に付けることができるようにしてください。

次に、保護者並びにご来賓の皆様へ一言申し上げます。本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。心身共に大きく成長した姿に、感慨もひとしおのこととご拝察いたします。保護者の皆様には、本校教育活動に対する深いご理解と、温かなご支援を数多くいただきました。ここに改めて御礼を申し上げます。また、ご来賓の皆様の本校教育への深いご理解とご支援に対しましても、ここに厚く御礼を申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの時です。私たち教職員、在校生一同は、皆さんが高い志を抱き、学びとチャレンジを続けることによって、自分自身の未来、ふるさとや日本の未来、そして、国際社会の未来を切り拓くことを楽しみにしております。

結びに、卒業生の皆さんの大いなる可能性に期待と想いを馳せながら、心身共に健やかで、実り多き人生になることを祈念しまして、式辞といたします。